



Save the Children Of Buruli Ulcer!
-難病への挑戦- ブルーリ潰瘍の子供たちを救え!

K.I.U.
KOBE INTERNATIONAL UNIVERSITY
神戸国際大学

神戸国際大学キリスト教センター通信
2024年7月30日
ブルーリ潰瘍の子供たちを救え!
ありがとう 25年_①

キリスト教センター長 ミカエル 藤倉哲哉

1999年秋に発足した“Save the Children Of Buruli Ulcer!” (SCOBU) 神戸国際大学ブルーリ潰瘍問題支援プロジェクトは、KIUの学生・卒業生・教職員で構成される国際ボランティアグループで、WHO世界保健機関やガーナ・ベナン・トーゴなどアフリカ各国政府、またキリスト教会や海外の団体が運営する病院などに協力しながら活動を続けてきました。

このブルーリ潰瘍はアフリカや東南アジアなどを中心に流行している感染症で、抵抗力の弱い子供が罹ることが多く、治療が遅れると死に至ることもある痛ましい病です。私たちKIU神戸国際大学では、日本の医療関係者にもほとんど知られていないこの病気を、もっと多くの人々に知らせて支援の輪を広げようと、この神戸で街頭募金をはじめ国際シンポジウム、病気の実態を知らせるパネル展示、チャペルでのチャリティーコンサート、六甲アイランドのイベントのバザーへの出展などを通じて、学生や地域住民のみなさんとともに支援を続けてきました。

「神戸から世界へ」を掲げたこの活動は、国際大学としての象徴的なコンセプトに基づくものであり、私たちが神戸にいても、大学のある六甲アイランドからでも、常に広く世界に目を向けて学び、また世界を体験して世界に貢献することができるユニークなプロジェクトです。

また、学生が参加する活動は募金などの経済的な支援にとどまらず、WHO本部が主催する国際会議に出席して英語で活動報告を行ったり、日本で開かれた学会に出席した海外の研究者を迎えて交流したりと、アカデミックな分野にも活動を広げてきました。

活動に参加したメンバーのなかには、卒業後の進路を研究者に選び大学で教えながらブルーリ潰瘍をテーマに研究論文を発表したり、活動に触発されて国際機関で世界に貢献できる仕事に就くことを希望したりする学生がいることは、このプロジェクトに携わる私たち教職員のおおきな誇りです。



入院患者の子供たち (ガーナ)



WHOの国際会議に出席する卒業生
右: 福西和幸 左: 新山智基

ひとくちメモ「サービ斯拉ーニング・Service Learning」

ボランティアなど社会活動を通して学習するサービ斯拉ーニング・Service Learningは、活動や体験から社会課題の解決を考えるというもので最近では大学に限らず多くの学びの場に採り入れられています。本学では交換留学の提携校であるフィリピンのトリニティ大学“Trinity University of Asia” TUAで、世界聖公会大学協議会“Colleges and Universities of Anglican Communion” CUACが主催するサービ斯拉ーニングプログラムに学生を派遣しています。

フィリピンや日本をはじめ韓国などアジアの聖公会の大学から学生が参加して、フィリピン・アジアの社会課題とその解決について学ぶ正規の授業科目です。とてもレベルが高いですよ!



六甲アイランドのイベントに参加